

発言者	主な意見
榎本様 (県PR観光課 山崎幹事代理)	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドについては、カントリーリスク以外にも、自然災害などによる風評被害の影響を強く受ける傾向があり、それが宿泊者数の数字に直接響いていることから、危機管理や風評被害対策を重視すべきである。 県においては、令和13年度末を目標にM I C E 拠点の整備に取り組んでいるところであるが、これを活用したM I C E 誘致については、2～3年前から動く必要があるため、県市で一緒に取り組んでいけるような形でこの重点プロジェクトとして盛り込まれることは意義があると思う。
木村様 (県観光連盟 宮崎幹事代理)	<ul style="list-style-type: none"> 「M I C E 等の交流機会創出強化プロジェクト」においては、国内だけでなく、国際M I C E や海外のスポーツキャンプ誘致等、国外もターゲットとなる。 「稼ぐ観光」の実現に向けては、体験型コンテンツの充実や桜島、歴史文化などの観光資源の連携強化により、長期滞在や高付加価値な観光消費を促進することが重要。
久保幹事 (鹿児島商工会議所)	<ul style="list-style-type: none"> 「M I C E 誘致」はDMOのみが行うものではなく、関係団体が連携して図られるものである。 M I C E については誘致だけでなく、「施設整備をはじめ、受入体制の強化」という視点も含めて整理すべき。
松村幹事 (DMO)	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットについては、観光市場や国際情勢、航空路線の就航状況等により変化することが想定されるため、状況に応じて柔軟に見直す考え方を戦略に盛り込むべきである。 M I C E 誘致支援の強化については、DMO内においても、ターゲットに応じた効果的な支援策等について、県との連携も含めて、検討を進めているところである。
西野幹事 (市ホテル旅館組合)	<ul style="list-style-type: none"> 夜間に街を歩いている、クルーズ客ではなく宿泊客と思われる欧米系のインバウンドをよく見かけるなど、インバウンド需要は徐々に回復してきている印象がある。